



文章雜觀

新聞記事文の今昔

伊藤正徳

昔の新聞は文章を重んじた。往々それに囚はれた點もある。...

「閉鎖は内に秘められて、外に露々の雨あり」といふ形容詞があつた。...

悪文の例も面白からうから一つ掲げて置かう。明治三十七年日露...

號九十二第 月二年五和昭五 行發日五・回一月五...

なかつた。ところが反動が襲來した。...

戦争中、旅順口の閉塞戦の記事に振つたのがあつた。海軍將校が記者團に對して...

「敵艦隊は例へば鮮魚の小水に泳ぐが如きなり」といふ文章體ではあるが、考へて見る...

斯ういふ例もあるが、原則は、行文修辭を記者の職みとして忘れ...

消息 満洲部長 高木 一實 關門支社長 船木 重光...

同盟診療休養施設

職員及家族の疾病時に於ける診療治療の便宜を計る爲今回順天堂病院...

第一條 診療休養を目的とする特別機關として左記を指定す 病院 順天堂病院...

本體が文章體で、助動詞だけ、口語體のものが應急的に記事の文體となつた。...



秋山少佐等 本社參觀 陸軍省情報部員秋山少佐一行六名は一月二十六日午後三時...

支那視察雜感

波多尙

私は去

年八月中旬、東京を出発して十月中旬までの約二ヶ月を上海を中心として支那を巡り、次いで南支方面を一巡りして臺灣經由上海に歸來、北支、滿洲を通つて十二月初め歸社したのであるが、生れて始めての支那旅行ではあり、頗る興味深いものがあつた。私が本社において振り廻してゐた「机上の空論」乃至現在の實情についての想像、認識といふものは、かなりの程度において修正を必要とする點も少くなかつたが、しかし東距の新秩序建設について日本の國力を過小評價し、ともすれば退嬰的妥協的に洗れようとする一部論者の悲觀論は誤謬であるとの信念を益々強め得たことは大きな收穫であつた。

所謂支

那通が權威を失ひ、影をひそめつゝあることは、その基礎が如何にあやふやなものであつたかを示すものともいへよう。日本人の手による本當の支那研究は、いまあらゆる部門から幾多の失敗と苦難と戦ひつゝ全面的に開始されてゐる。これらの研究が今後何年何十年となく集積され、組織立てられてこそ、始めて支那建設は強固な基礎と體系とを把握し得るであらう。従來の支那通は要するに西洋人の眼で見た支那、支那人の眼で見た支那の受け賣り以上に出なかつたのである。これを日本人の眼で觀直して、本來の支那開放の線に沿つて體系を建直すことが日本に與へられた使命であり、この仕事はたゞひとり日本のみが爲し得ることであることを我々は自信をもたねばならないのである。

支那建

設の混亂は政治的に見ても經濟的に見ても實に想像以上であつたが、これは一口にいへば日本の混亂が大きく擴大されて支那に投射されてゐるのだといふことが出来る。問題は誰もが云ふように一に東京にある。米がない、マツチがない、炭がないといふ混亂を如何ともなし得ない現状において、支那建設だけがうまく行つたら、むしろ不思議であらう。しかし大勢は國民大衆の正確な直觀と發見たる發展力によつて、

結局正

しい方向に進みつつあることを明確に結論し得ると思ふのである。

支那の政治、經濟、歴史、文化、

ない支那について、百聞一見に如かずといふことを痛感した點において多くの支那視察者と同様である。そして一人でも多くの日本人がかうして支那を現實に視、かつ體驗することの集積が、日本の大きな建設事業をより活潑に推進することをしみてゝと感じたのである。大陸は雄大であるとか、支那人の性質がどうか云つても、現實に體驗した者でなくては判らぬものがある。

日本の

全階層を網羅し、次の時代を背負ふべき青年數十萬が、皇軍兵士として交代して支那に駐屯することが、かゝる意味からしても如何に重大な意義をもつつか、私は數年後の東亞の新様相に絶大の期待と信頼とを懸け、刻下の悲觀論を大して齒牙にかけらるる必要なしと思ふ所以の一つの根據はここにあるのである。

支那の

物産は頗る豊富である。殊に中支那の農産物は、日本の集約農法を見た眼には勿體ない程の粗笨な原始的耕作法をとりながら、羨ましい位ゆたかである。現在の支那が何よりも、先づ農業國であり、鑛山の開發や工業の建設がまだ相當の年月を要するといふ現實に即するならば、中支那の農産は第一に着目すべきものであらう。而も中支那を貫流する揚子江の洋々たる流れは何といつても支那經濟の動脈であり、支那經濟の根幹は實にこゝにあるといはねばならぬ。

私は漢

口から船に乗つて上海まで六日間、悠々たる揚子江の流れと沿岸に展開する廣漠たる沃野、諸所に點在する大治その他の鑛山な

どを終日倦かず眺めながら果しなく支那大陸の上に展開されて來た悠久の歴史に日本が演じて來た大きな役割が如何に歪曲されて傳へられてゐるかを思ひ、眼前の一見平和な大陸風景の陰に火を吹いて轟進しつゝある世界史の大きな轉換を考へつゝ、この揚子江の確保こそ、支那事變解決の重大な急所であることを繰返し思つたのである。

いま揚

子江で會ふ船の旗をかゝげた日本船であり、而もその数は多いとはいへない。河岸の町もハルカも倉庫も到る處破壊されてゐる。現在の農産物の出廻り状況を以てしてはこれだけの船、この破壊された設備を以てしても何とか間に合つてゐる。しかし沿岸諸省の農産は去年も必ずしも不作ではなかつたのである。治安の恢復不充分と政治經濟工作の進行難のため、この大きな動脈とこれによつてつながれてゐる諸都市とは目下半身不隨の状態にある。人々は悲觀論的にこれを「點と線」の保持といふ言葉で表現する。私は「點と線」で結構ぢやないかと思ふ。何時の時代にさうでない歴史があるかと反問したい。

經濟の

原則は結局、支那經濟の死命を握るこの「點と線」とに歸つて來るに違ひない。建設は長期に亘る。我々は腰をすえてこの「點と線」とをしつかり握つてゐること、何を措いても大事なのだ。舊揚子江の一部開放の方針が聲明された。これについて色々の立場から議論があらう。しかし私は上述の原則はあくまで固執すべきであり、これこそ事變解決の鍵の具體的表現の一つであると信ずるのである。

支那事

變の本質は日英戰爭である。近世史を支配し來つた英國に對する新興日本の擡頭挑戦である。揚子江の問題も結局こゝに歸着するのであるが、他の大きな問題に幣制の問題がある。法幣の將來如何、新政權の幣制如何といふのは支那經濟問題において日本の注目する最大問題の一つである。

法幣を

支持するものは上海銀行を中心とする英國系金融資本である。こゝは周知の事實であるが、支那經濟におけるこの金融資本力が如何に壓倒的なものであるか、そしてそのブラックチェンバーが何を考へ、何を策してゐるかが如何に窺ひ知るを得ざるものであるか、これは全く想像以上であつた。支那において普通の意味の經濟競争を以てこれに打ち勝ち、これを打倒しようとすることは日本の經濟力を以てしては無論のこと、米國の力も至難である。

支那事

變は戰爭である。而も最も大規模な、世界史の轉換を意味する長期戦である。この點をハッキリ認識し、こゝから政策を出發させることによつて途は見出されなければならぬ。法幣に便乗した軍需には何等新しい幣制へ示唆はない。磅にリンクした華興銀行券のさゝやかな存在も今のまゝでは前途に大した期待はおけない。

幣制は

結局政治權力によつて裏付けられねばならぬ。その意味においてむしろ聯銀券の方がより明確な本質をもつてゐる。現在の中南支の混亂した幣制は政治情勢の過渡的な混亂をそのまま反映してゐるのであつて、政治を離れて幣制だけを問題にすることは無意味である。

ある。法幣と中南支幣制の齟齬は支那事變の本質たる日英抗爭の推移如何にかゝつて居る。あくまで英國と戦ふか、或は一時妥協するかによつて、途は自ら決定されるのである。

同盟互助會收支計算報告書

昭和十四年一月一日より同十二月三十一日迄に於ける「同盟互助會」の收支計算は左の通りとなつたから、本同盟報を以て會員各位への報告に代へます。

前期より繰越殘金	二、六七七・七五
十四年中總收入	一七、一一六・七八
自七月至十二月社よりの補助金	一、三八七・七二
預金	一、八七九・九七
計	三、七〇五・二二
支出の部	
結婚祝	五三件
出産祝	一、五一〇・〇〇
應召及入誓祝	三、一一〇・〇〇
退社餞別	二七件
病氣及災害見舞	三、四八〇・〇〇
會員香料	一一五件
會員香料	三、八九〇・〇〇
配偶者香料及見舞	一、五五〇・〇〇
配偶者香料及見舞	二、二五〇・〇〇
家族香料及見舞	七四件
會員外香料	三、九一〇・〇〇
送金雜費	八〇〇・〇〇
計	二、〇〇〇・五〇
十五年度繰越存金	九、七〇四・七二
昭和十五年一月	
同盟互助會	
會長	古野伊之助

同盟本社

新年互禮會

聖戰第四年の昭和十五年新春、而も光輝ある紀元二千六百年の元旦を迎へて、我が同盟通信本社では一月一日午前十時から本館三階の執務室で恒例の新年互禮會を催した、各部のデスクが祝卓に早變りして白布で覆はれ冷酒、ビールするめ、蜜柑、せんべい、ピンズ等の戦地の祝宴を彩るさせる獻立

倉田經濟部長の司會で先づ宮城遙拜、戦後將士戦傷病勇士並に戦線の將兵に對し一分間の黙禱を捧げ、それより古野社長の力強い挨拶（別項）ありて後、社長の發聲にて天皇陛下萬歳、同盟通信社萬歳をそれ／＼三唱し祝宴に入る宴半ばに諸君の朗々たる詩吟ありて盛會裡に十一時近く散會し各部は直ちに初執務を開始した。

社長挨拶（速記）

茲に諸君と共に昭和十五年を迎へるに當つて一言年頭の所感を申し述べます。

暮れ去つた昭和十四年は吾々同盟同人にとつて永久に忘れることの出来なかつた年でありました。新年早々近衛内閣の政變、歐洲ではスペインの内亂、また支那事變も陸海軍の空爆、海南島の占領其他中南支各地に互つての作戦行動の連続、それに伴つて建設工作等々色々我が社各部局に互つて多事多端を極めたのであります。歐洲の争戰はいよいよ激甚を極

めて英佛對獨伊の關係が益々悪化して來る、それに伴つて日獨伊防共軍事同盟を中心にして日本國內においては物情騒然たる情勢を現出し、やがてはこれが獨ソ不侵略條約により第二次政變を捲起し、歐洲の天地は果して平和か戦争か形勢いよいよ逼迫した。その瞬間に突如として青天の霹靂岩永社長の急逝を傳へ社を擧げて愕然なすところを知らなかつた。

去年の正月この壇上で社長が平素の持病を押へながら「まあふだんはとも健康が勝れぬ勝ちで相濟まぬ今年は大に上つかりやう」と言つて大に聲はれたその面影は尚吾々の眼前に髮髯として現はれて來る。併しながら斯様にして社長は遂にその半生を日本に於ける國家代表通信社建設の事業に捧げつゝ倒れてしまはれたが、こうして過去を今思ひながら、秋ではなく過去の考へに時間を潰してゐる秋ではない、之れは又岩永社長の志でもないと思ひます。今果して吾々は如何なる年を迎へようとして居るのか、昭和十五年！これこそ支那事變第四年に當る、偶々光輝二千六百年を迎



（寫眞は萬歳呼唱）

へて我が日本國民は非常な決意を以てこの内外の時局に直面しなければならぬ秋であります。歐洲の風雲は今尙果して戦争か平和か、一步を誤れば第二次世界大戦を捲き起す危機を孕んで居ります。支那事變は新春早々恐らくは汪精衛政権を中心とする中央政府の樹立を見ることでありませうが、これは事變の一段階に過ぎないのであつて武力戦は漸次經濟戦へと移行を續けて行く、武力戦が經濟戦に移つて來るに従つて統後國民の困難は一層累加されるもの

と覺悟しなければなりません。今頃米が足りないとか炭がないとか今まで色々過去二年有半に互つて斯様の大きな戦争をしながら、尙戰時の體制に移つてゐなかつた日本國民は今支那事變が漸く武力戦へと一段落をつけて經濟戦に移るに従つてしみ／＼戦争の勞苦を味は

なければならぬ段階に直面してゐるのであらうと思ひます。この重大なる内外の情勢に直面して我が日本を對外的に代表し世界の動きを全日本へ、日本の聲を全世界へと、この重大使命を擔ふて居る吾々同盟同人の任務は愈々重大を加へるのであります。過去四年間に之の組織之の機構共に結成當時に比して四倍化し五倍化して居ります、同盟誕生の當時に於ては僅かに一千軒、二千軒を數へて居りました専用電話は蜿蜒六千軒を數ふるに至り、對外放送の如きも四五百語を以つて始めた放送が今日六千語に及び、收支豫算の如きも百五六十萬に過ぎなかつたものが六百萬圓、七百萬圓に上り、社員の数も七八百を數へてみたものが二千二百を算してゐる斯様にしてこの時局の進展に伴つて我が社の事業も益々擴大強化されつゝあるのであります。而して内外の情勢は先程簡単に申述べましたやうに益々重大を加へつゝあるのであります。

どうか我が同盟建設の同志たる二千二百の社員諸君は社団法人同盟通信社の名をそのままに、國家公共の目的のために大同結盟の精神に燃えつゝ正確公正なる報道の陣營に立つて、華々しく御奮闘あらんことを熱望して止まないのであります。これこそ我等が國民としてまた同盟の同人として、この二千六百年を迎へるに際して唯一の決意であり覺悟でなくてはならぬと思ふのであります。どうか來るべき年を迎へて充分自重し健康を保持して精一ぱい御奮闘あらんことを祈ります。岩永社長が昨年「今年は大いにやる」と言はれた言葉を茲に繰返して、彼岩永は今日吾々と共に生き共に闘つて居るのであるといふことを固く肝に銘じて戴きたいと思ひます。

日本商業通信社

同盟との聯携強化

我が同盟の姉妹機關たる株式會社日本商業通信社は支那事變勃發の直前、即ち昭和十二年七月一日の創設にかより爾來その事業目標の達成と發展に努力した結果、設立以來僅か二年半に過ぎざるもその間既存の同業社を併合統一し今や本社無二の強力なる商業通信機關として驚異的發展を遂げつゝあるが、現時局下に於ては國策的見地から一段と同盟通信社との聯絡統一を緊密にすることが望ましく、將來事業の一層の躍進を圖るためには事務の統制と合理化を促進する必要がある。今同社はその機構の改革を斷行した。即ち日本商業通信は従來通り獨立の法人として存続するが、通信部に屬する事務は之れを同盟に委託する事となり、その従業員は本年一月一日以降本社、支社、支局とも同盟の職員に編入された、而して商通東京本社通信部の事務は同盟本社經濟局長の監督下に置商た。

通社員によつて遂行され又支社支局の同事務はそれ／＼の各地同盟支社局長の指導下に置かれる事となつたのである。右の結果同盟の經濟通信と商通の商業通信とは實際上統合され通信内容に於て將又業務部面に於て互に有無相通する事か可能となり全國の一大躍進が期待される。商通本社舊通信部は一月二十八日同盟分館（新館）の二階に移轉し同階下の同盟外經部と近接して聯絡を密にし即日より事務を開始した。勿論通信問題各地とも變りはない。一方商通出版部は従來通り商通の事業として引續き經營されるが之れも同盟出版部と一層緊密なる聯携を圖る事となり、塚本商通新代表取締役の指揮下に之れ亦今後の發展を期してゐる。而してその事務室は従來の場所即ち別館二階に同盟出版部と同居する事となつた。

松田令輔氏講演

滿洲國經濟部次長松田令輔氏は二十九日午後五時半から本社員のため八階會議室に於て約一時間支那事變下の日滿經濟事情について講演を行つた。

これを以つて私の挨拶を終ります、最後に臨んで歴史に輝く二千六百年、この年を迎へて聖壽の萬歳を唱へて互禮會を終ります。どうか御唱和を願ひます。

△廈門支局移轉
廈門市大漢路二四六號
社団法人同盟通信社 廈門支局

△漢口支局住所地名變更
漢口特三區鄒陽街二號
社団法人同盟通信社 漢口支局

原稿締切
毎月廿日

地方ニユースの貧困

山口 巖

一、地方紙の存在理由

同盟は世界に亘つての通信網を張つて居る。歐米ニユース、東亞ニユースは同盟のみが完全に近い網を持つて居り、速報を期して居る。然るに國內はどうか、顧みて餘りの貧困に驚く。

事、海外に亘つては同一同盟の専賣である。同盟を除いては海外の情報蒐集は完きを期し得られぬに反して、國內ニユースは何故に之れに及ばざる遠く、之れに劣る事甚しきやと痛嘆せざるを得ない、而かも國內的に之れを問題化せざるは何たる事ぞと更に慨嘆を深うする。

我々の手許には全國の地方新聞が送り届けられる。毎日之れを開きこれを見る毎に我々は如何に多くの地方ニユースが不問の儘に看過されつゝあるかを見せつけられるが地方に於ては何故に之れを感得せざるかを今更の様に怪しむものである。ここに斷る迄もなく同盟ニユースは海外に限られるものでなく、中央に限られるものでなく、更に又、地方と言へば大阪、名古屋、横濱、神戸、關門、福岡、京城等に限られるものではない。所謂取材記者の配置された所のみがニユースを供給し得る譯ではない。同盟社員の在る所、社員新聞社の存する所は總てこれニユース供給源である。而もニユースは中央より地方へ、地方より中央へとの方に限られるものではない。地方から地方へも自在であり自由であるべきだ、この判り切つた事が

完全に行はれニユースの交換、交流が遲滞なく無碍の運行を見るに於ては一社の特種の如きは些々たる存在に墮し廣汎に網羅統合されたるニユースが紙面を飾り、その存在價值を誇示する事を知るであらう。即ち地方紙の存在理由附けをなすものは其の紙上に海外、中央のビッグニユースが載る事は元より更に、その地方關係ニユースを網羅する事である筈だ。ここに同盟と地方紙が相互に再考慮をなし再出發すべき問題が存すると考へる。

二、地方取材網の再検討

地方から同盟本社への要求は大體ニユースと情報と云ふ事になるが、本社から地方への要求も同様である。地方相互に於ても同様である筈だ。情報はニユースへの経過を説明し、次のニユースに對する待機を促すが故に非常に重要である。従つて情報の交流が整備すればニユースは最も適切なる取扱ひを受け判断を正鵠に導くであらう。扱て同盟の地方支社局の動きはどうか。大阪、名古屋等の支社を除けば大體は左の如くではないかと思はれる。

一、ニユースに對して、本社との連絡を第一とし新聞社への配信中に重點を置く、従つて地方取材は第二義、第三義となる。
二、地方取材に對して、専任記者あれば兎も角、配置なき所は關係新聞社に頼るか、地方新聞を見て動く。

東朝、東日(大朝、大毎)等の中央紙の支局は主として地方取材に重點を置くから同盟支局が右の如き動きをなして居つては地方取材については角力にならぬ事となるのである。故に地方ニユースをカヴァーするために根本的には同盟支社局の再編成を必要とする。元より配信と地方新聞社との連絡は絶対に必要であることは言ふ迄もないが、それと同時に中央紙が取材する程度は必ずカヴァーするのみならず更に進んで情報に迄及ぶ義務が存すると考へる。

三、支社局の再編成

地方ニユース改善の根本策は支社局の再組織を計つて同盟支社局の第一義的使命はニユースの蒐集と配信に在る事を再認識する事である。そのためには、先づ第一に全國各支社局に於て自主的取材網の計畫を確立することである。即ち、ニユースと情報とを完全に蒐集するには地方的に如何なる配備を必要とするかを明確にすべきである。同盟が國策通信社たる建前に於ては絕對的に自主的取材網を整備すべきであつて今日尙ほこれが不完全であることは眞に遺憾に堪えない。目下計畫中の國內放送(無線同報)が實施された際には全國に新に三十數ヶ所の支局が新設される事となり國內通信網は一段と整備されるがこの機會に取材網を充實して希望を達成し度いと考へる。

四、地方紙との協力

同盟は海外に於て、中央に於て、完全なる取材網を動員して地方紙の要望を充しつゝあるが故に地方に於ては同盟支社局は地方紙の協

力を得て地方ニユースのカヴァーに完璧を期し度い、元より同盟支社局自體が自主的取材網の整備に努めるは言ふ迄も無いが、同時に地元の協力は絕對的に必要である。地方紙中には率先して同盟支社局に對しローカル・ニユース全部を供給呈示される向きもあり、或は地方放送局に供給するローカル・ニユースのコピーを同盟へ提供される向きもある。

五、静岡の紙犠牲的協力

静岡の大火が同盟に入報したのは正に一月十六日午後二時三十分米内内閣の閣僚銜が一寸一服の態となつた時であつた。静岡民友新聞社との通話で「静岡は大火だ、四百五十戸焼けた、尙ほ猛烈に延焼中」との第一報があつた。出火時刻はと聞けば正午頃との話に愕然とした。と言ふのは閣員の顔觸れ等組閣ニユースを取るために、入れるために、民友と静岡新聞社と同盟本社間には申込み電話、豫約通話等でそれ迄に何回となく通話してゐたのだ。それが四五百戸も焼けたと云ふ二時半に於て初めて第一報に接したからソレ大事件と云ふので直に全國に速報すると共に、映畫、寫眞、社會部と動員されて特派員は三時の特急で西下した。一方飛行機の準備もなつて社會部、映畫、寫眞部員は空中から静岡へ向つた。二時五十分、静岡民友と通話中に「本社も火に包まれた、背中があつい、もう駄目だ、勘辨してくれ!」と先方の話者が語つて電話はブツツリ切れた。正に悲壯そのものだ。それから間もなく東京との電話は全部斷線された。

静岡の大火の中に静岡民友、静岡新聞社の諸君は同盟に對して自社の危険も顧みず、一身の安危も忘れて最後迄ニユースと寫眞の供給を斷たれなかつた。静岡から清水から等々、凡有る努力をしてくれた。この涙くましい献身的犠牲的努力と放送局、鐵道、通信關係者と同盟とのコンビに依つて静岡大火の詳報は忽ち全國に飛んだ、この結果、全國の同情と救援の手とは直に總動員されて灰燼の中から力強い復興の音が響き互つたのだ。静岡兩紙が讀者に對し、縣外に在る静岡關係者に對し、ニユース報道の重責を果した事に對し衷心から敬意を拂ふと共に地方紙が同盟と共に生き同盟と共に動く事が眞に本來の使命を完全に果す最も重要にして捷徑なる事を立證したものと推奨し度いのである。

六、地方紙との連絡

地方ニユースのカヴァーについて地方紙の犠牲的協力は最も望ましい所であるが、これについては同盟支社局と地方紙側との連絡を緊密にする様改善の要がある。地方新聞社と同盟支社局との連絡が今尙ほ不十分であると云ふことは有り得べからざる事であるが事實に於ては遺憾はがら有る事を示して居るのは看過し難い。勿論、全部が全部そうであるとは限らぬが相當ならず聯絡不十分なる事を示してゐる。即ち同盟支社局に毎日出向いてニユースの流れを注意しその取扱ひに注目しつゝある地方新聞社の幹部との交渉はあつても支局員と新聞社編輯局員とが充分

た。静岡の大火の中に静岡民友、静岡新聞社の諸君は同盟に對して自社の危険も顧みず、一身の安危も忘れて最後迄ニユースと寫眞の供給を斷たれなかつた。静岡から清水から等々、凡有る努力をしてくれた。この涙くましい献身的犠牲的努力と放送局、鐵道、通信關係者と同盟とのコンビに依つて静岡大火の詳報は忽ち全國に飛んだ、この結果、全國の同情と救援の手とは直に總動員されて灰燼の中から力強い復興の音が響き互つたのだ。静岡兩紙が讀者に對し、縣外に在る静岡關係者に對し、ニユース報道の重責を果した事に對し衷心から敬意を拂ふと共に地方紙が同盟と共に生き同盟と共に動く事が眞に本來の使命を完全に果す最も重要にして捷徑なる事を立證したものと推奨し度いのである。

諒解し合ひ各自相互にその機構を知悉し合つてゐる所は妙い。絶えず相互に注意し、ニユースの流れをウオッチし合ふ事は當然な事であるにも拘はらず同盟支社局員は新聞社を知らず編輯局員を知らず新聞社亦然りでは同盟の如き共同機關の運営が十分に行かぬ。これは依然として新聞社側が從來の通信料で通信を買ふ觀念から脱却し切れぬものある事を示すものであり、又、同盟側にも獨善的氣分が存するものと解されても已むなき所ではあるまいか。これを改善するには同盟側と新聞社側とが事實上に於て緊密不可分なる事を示すのみならず相互に完全なる諒解を進める様になすべきである。即ち本社に於ける出向社員制度と同様の効果を擧げる様地方支社局と關係各社はなすべきである。態々、遙々と同盟本社迄出向された地方各社が本社地方の同盟支社局と十分なる聯絡を採られることは至つて簡單であるべきだ。斯くして地方新聞社側から見れば同盟支社局に入る總てのニユース、情報等は新聞社側に適當に傳達されるべく、適切時間、スペース等に關する問題も自づと解決する事と考へる。又、同盟側より見れば地方に於けるニユースの流れ、情報、新聞社の動き等を知悉する事を得て地方取材は完全に近く充實する事を考へる。

【五面(つゞく)】

最近の佛印事情

前田雄 一

大屋前支局長と共にこの七月ハノイを訪れて以来四ヶ月ぶり、十一月十二日廣西作戦開始に先立つて二回目の佛印に渡つた。

豫定の十日が親善機大和號や土橋少將のハノイ渡來で長びいて約一ヶ月半の滞在となつた。この間仕事の上で非常な制限が加へられ興味ある電報、殊に廣西作戦の佛印に及ぼした影響、輸送の問題等に關する記事を書くことが出来なかつたが、それが爲却つて佛印最近の苦悶が判つて面白かつたといふのはあながち負荷しむばかりでもない。

以前日本へ毒舌を吐きつづけたゲオロンテ、アンドシノワーズはじめ四つの河内佛系紙及三安南系紙の論説欄が日本軍北海上陸以來南寧占領、國境嶺南關占領迄一行も右に關して論ぜず遂に沈黙を守り通したといふのは寧ろ奇怪な事實であつた。又ニュース面に於ては中央通信の記事を多量に採用してあるが、餘りに日本に不利な記事乃至は個所は檢閲で削除してあつた。これは歐洲戰爭以來地理的弱點を日本の前に暴露した佛印が、日本の政策日本の出方に細心の注意を凝らし、徒らに日本の感情を刺戟するの愚を避けつゝあるは好例である。この反面親日的記事が同様新聞雜誌に見られぬのは日本の安南人への影響を極度に恐れる當局の態度を示し、新聞はこのチェンマに沈黙以外の方法を發見することが出来ないのだ。

廣西作戦は佛印に大きな衝動を與へた。今迄は遠方の出来事だつた日支間の戰爭が不意に垣一重隣りに移り、日本の實力が目と鼻の先にクローズ・アップされたのだから條件の悪い佛印として必要以上に神經質にならざるを得ない。

(その一) ある佛人が僕を招待する。僕に何の關係もない財界の男である日本人を通じての招待なのだ。最初は食事と雑談、ついで儀禮上三つちから招待する。その席上彼はもう一度會ひたいといふ。そしてその三度目の會食の時やつと彼の會談は核心に入り廣西の日本軍の目的、その兵力等を識りたがる。

(その二) 佛蘭西が安南占領當時國外に亡命した愛國派の志士が十名、廣西戦のドサクサまぎれに佛印に潜入したといふ廣範圍に互るデマ。

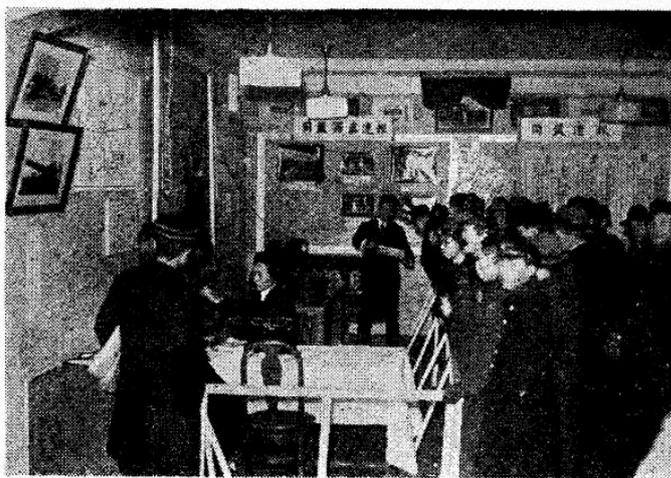
(その三) 街頭で佛人の子供が日本人の子供と議論して「日本軍は佛印に來るか」と聞いたのに對し日本の子供が「來るさ」と答へたこの言葉が「日本軍が國境を越えた」といふ聲になつてぐんぐん擴まり、遂に官憲がその日本の子供を留置して調べたといふ事實等廣西の日本軍の壓力は無意識の裡に佛印に凭れ掛り、佛印は勝手に恐怖感をでつちあげたといふのは南寧占領當時の實感であつた。

獨立國家といふ歴史を殆んど持たぬ安南人は頼りない民族だが、極東の強國同じ東洋民族の日本に對する彼等の關心は事變以來可成根強いものになつてゐる。それが現實に日本の力をすぐ隣りに見た今、日本への憧憬、興味關心が急激に昂揚したことは確かに事實だ。非常に弱性格の民族の中

これがどの程度の力を持つかは甚だ疑問だが、この事實に對する佛印當局の苦悶は相當深刻なものである。やがて日本シヤム間の定期航空が開始され、毎週往復二回日本機がハノイに着陸し、又日本との距離がこれにより僅か二日に短縮されることになつたが、これが佛印の對日態度はいよいよデリケートなものになるだらうことは充分豫想される。また佛印の最も恐れてゐることは日本とソ聯との接近である。

人氣を呼んだ同盟出陳部

熊本通信局主催通信省後援の興デパート岩田屋で開催、福岡支社亞運信展會は一月十七日から二十九日まで十三日間福岡市隨一の事となり割當てられた十坪にあまの會場を社旗で飾り通信網圖、寫眞配給圖等を掲げ刻々の重要ニュースとその日の寫眞ニュースを揭示し無電機と電送寫眞機とを自動させ時折實驗して一般の觀覽に供したのが展覽會唯一の實驗附出陳だつたので終始非常な人氣を呼び別室では本社製作映畫の「報導艇身隊」と「艦ぶ郵便旗」を映寫し通信當局の感謝と一般の好評とを博した。



(寫眞は同盟會同盟出陳部)

互助會報告 (一月)

- 伊藤 壽雄(本社放送部) 結婚
家原 俊郎(同政治部)
酒井 榮三(横濱支局) 二男
渡邊 定吉(釜山支局) 出生
- 高津 末吉(本社映畫部) 長男
岡本友三郎(大分支局) 四男
前川 春吉(熊本支局) 長女
深津 太郎(名古屋支社) 長男
勝尾 信一(同上) 長女
崔 元 榮(京城支局) 長女
高田 信一(京城支局) 二男
田崎與喜衛(本社經濟部) 長男
三輪 武久(北支總局) 長女

【四面よりつゞく】
に依つて他の全国各地より如何に多くの關係ニュースが蒐集、集中されるかを體驗されるであらう。特種はやれぬとの話はよく聞くが特種だけでは決して毎日の紙面全部を埋めることは出来ぬ。特種は無より有るが宜しからず。然し一の特種が天才的存在を示すことよりは全部が選ばれた凡常的存在であることの方が新聞としての意義が多い。一の特種を誇示しこれに千鈞の重みを托するよりも全

國的に世界的に取材網を張る同盟とこれを結成する全国各地の取材網とを全的に活用せよ。而して自社も亦他社の通信網の一端をなすものとの犠牲的互助連環の精神を更に昂揚振起せよ。

地方ニュース、情報を充實する事は同盟をして國策通信社としての使命を達成せしむるのみならず地方紙をして一層その存在を理由附け、正しく進展させる重要要素である事を重ねて附記し度い。(一)

- 吉富 正甫(同上) 第二子
戸來 秀睦(本社政治部) 第三子
大島 廣(大阪支社) 二男
船越 武十(本社經濟部) 長女
入塾下應召
- 齊藤 清(本社地方部) 入塾
岩井 五郎(同上) 同
喜多原星郎(同寫眞部) 同
井内 信治(同上) 同
村田 政雄(同同況部) 同
村中 篤(同運動部) 同
村上 賢(神戸支局) 同
松尾 武一(本社放送部) 同
國枝 潔(福岡支社) 同
山野 喜祝(大阪支社) 同
藤森 進(同上) 同
中川 孝(本社放送部) 同
駒谷 朝則(同上) 應召
要 保太郎(長野支局) 應召
- 見 齋藤 義明(函館支局) 病氣
上地シヅコ(福岡支社) 同
高 壽福(京城支局) 同
田島 泰平(北支總局) 同
荻原 榮治(本社放送部) 同
熊本 松次(福岡支社) 負傷
白坂 正男(中支總局) 夫人入院
小池 章(京城支局) 病氣
黒澤 正一(大阪支社) 同
前川 春吉(熊本支局) 同
上杉 憲治(同上) 同
河崎 義男(京城支局) 子女入院
村山 光雄(熊本支局) 病氣
猪股 芳雄(本社放送部) 子女入院
塚本 一生(本社社會部) 病氣
- 上野 茂(同地方部) 同
高木 慶司(同政治部) 同
橋野 博一(同上) 同
岸江 憲一(本社外信部) 夫人病氣
岡本 英雄(名古屋支社) 同
齊藤 省吾(名古屋支社) 職傷
泉 富藏(北支總局) 病氣
坂口 榮(本社出版部) 子供入院
福岡 誠一(本社總務局) 病氣
千葉 秀雄(同調査部) 同
- 村山 尙寬(本社寫眞部) 實父死去
三宅 敬(同技術部) 祖母死去
若杉 修(名古屋支社) 死去
猪股 芳雄(本社放送部) 實父死去
松尾 勝太(長崎支局) 實母死去
村田爲五郎(本社政治部) 實父死去
荻原 榮治(同放送部) 實母死去
田中 彰(福岡支社) 實兄死去
松本 清(横濱支局) 實祖母死去
寺尾 順祐(京都支局) 實母死去
鈴木 四郎(大阪支社) 實兄戰死
阿部 勝治(京城支局) 實母死去
矢部順太郎(青島支局) 實父死去
坂井 慶子(神戸支局) 實弟死去
稻 道則(大阪支社) 實母死去
和氣敬光(名古屋支社) 實祖父死去
- 退 原 タケ(本社地方部)
友添 義人(福岡支社)
神田ふみ子(神戸支局)
横山 國藏(本社技術部)
富田 文夫(大阪支社)
岡野 はな(本社地方部)
平岡 慶次(同運動部)
烟野 基(北支總局)

静岡大火を慰問して

板谷幸太郎

東日縣廳に割込む

静岡大火の翌十六日、焼失を傳へられた静岡民友を初め東京名古屋の各有力新聞社支局通信部、並びに静岡新報社等を見舞ふべく本社事務局より杉田庶務部長以下、龜田、松本、板谷の四名が出発した。以下慰問行程録である。

猛火に社屋を護る

静岡驛頭に立てば見渡す限りの廢墟である。灰塵驟々天地も爲めに晦冥、そして驛前を埋める雑踏はいかにも愁然の色が濃い。

驛を左する事数町紺屋町の静岡民友新聞社は、焼失區域の眞只中である。どこかに避難したものも信じて横手のドアを排すと、中から社員二三名が招き入れてくれる。既に薄暮である。ロソクのゆらめく一階營業室は、机椅子何等の異状がない。仰げば扇間までキチンとかがつてゐる。一驚して聞くと、いへ幸ひな事に類焼は免かれました。社員従業員さうで居残り全員で十七名、地上三階建を死守籠城したのでです。當時の苦心を物語つてくれた。南は静岡國道に沿つて一延めと迫る猛火西は求友亭、北は浮月樓が炎々と燃え上る。二階三階のガラスを破壊して吹き込む煙と火に包まれて、女工までが死を賭して苦闘すること二時間、窓ガラス數十枚と動力線の破損のみに喰ひ止めたのはまさに驚き入つた剛氣と氣轉である。

持參の慰問品を贈つて辭した。四邊は闇黒であるが、焼残りであらう、隨所に煙を吐いて凄慘の氣が漲つてゐる。

類焼を免かれた静岡新報社を経験して歸る。實は本社より急派した社會部員にも聯絡がとれやう積りで、先づ受付に見舞つてから記者室をのぞいた。然るに正面玄関に近い政治部記者室は、東日臨時通信部室にあてられてゐる。些か羨望の感を抱きながら、焼出された東日支局のために深甚なる挨拶を述べたのであるが、支局焼失後直ちに活動して各社の俱樂部室を逸早く獨占した早業は確かに敬服に値するものがあつた。そして政治部記者室はさらに奥手の一室に移つてゐるし、焼け出された東京有力社には讀賣、報知あり、名古屋の二社もある。恐らく東日は餘程迅速に行動したに違ひない。

次いで朝日支局、市役所、電話局を廻つたのであるが、朝日のみ各有力社支局の中に在つて災火を免がれたのは幸運である。早くも救援事業、無料診療などを開始し支局隣接空地には幾張かの大テントを所狭しと張り廻らしてある。

静岡放送局は全く難を免れた。同盟との聯絡その他大いに好意を示されたのに對して深謝すれば何の何のそれは當然の話で寧ろ御期待に添ひ得ない事を愧ぢてゐる程です。同盟と放送協会の間柄など、小川放送局長は手をとりながらの親密振りを發揮する。本社急派の社會部員も屢々見へられましたとの話であつたが、遂ぞ吾々一行とは聯絡がとれなかつた。

華々しい各社

朝日、東日、讀賣、報知、新愛知の販賣店は何れも焼失してゐる。その避難先も一々突つとめる。朝からは各社一齊に救援事業の競演である。自らの復興よりも先づ救援一新聞社の活潑な働きは大社旗をはためかす自動車の間断ない横行にも見られた。自動車といへば乗用車はおろかダットサン、ト

静岡民友新聞

火災籠城記

小生記

魔の火は八方に飛散した。午後一時を過ぎた頃は風速二十米を越したと思はれる猛烈な大風に煽られながら國寶、寶藏院の大屋根に火がついた。二時頃には本社から僅か三四十間の近くにある當市第一の料亭浮月樓に飛火した。いよいよ社内各階の水道消火栓の水を出しはじめ。各長さ十間ぐらゐで社内と周囲にかけりる小形なものだ。しかし裏手には本社に接近して社員食堂と獨身者の寄宿舎がある。まづホース二本をつないで杉山萬君が裏手の屋根へのぼり撒水をはじめた。左隣りの梅月方へ飛火した。誰れも消すものがない。杉山君が社のホースでどうやら止めたが、みると浮月樓の火の粉が社屋を襲つてゐる。同一、二、三階の社内と頭張ることにした。一階營業部は須田君、福岡君らが人々を指揮して重要書類の整備をしてゐる。編輯の小田君もあつたに堪りかねて同盟への通話を切つたらしい。二階後半は活版室だ。ウマは鐵骨だかケースは木造である。まづ窓近くのケー

ラックでさへ拂底してゐる。その中を新聞社の活動は一きは目立つのである。物凄じい示威運動ではある。これだけの力を注げばこそ其の通信網の活動も自ら活潑たり得るのであらう。と同時に支局を保持した同盟が、大火ニュースをカバーする爲にいかにか苦心したのであらうか。その推察して餘りありまた急派された社會部諸君の氣苦勞に對しても深甚の敬意を示した事は言ふまでもない。

中央につみかさねたケースに落ちかゝる。ぬれ座布団でたゞいてまはる。下手に水つけにするとあとで困る、イヤその苦心……

左側の火勢は漸くおとろえた。右側の大勢も亦おとろへた。と思つたのも東の間突如、裏の社員食堂が燃え出したらしき裏窓へ盛んに煙を打ちつける。この窓ガラスは全部筋入りだ。破れても付いてゐるこれで煙はふせげやう。だが窓ワケは鐵だが内部の造作は木造りの部分がある。そこへ火は遠慮なく燃え出した。危機一發といふところでぬれ座布団と三階の消火栓ホースによつてまづぐといふところまで漕ぎつけた。その途端に一階からけたましましい聲が起る。ソレ一階だとかけ下りる。裏家の火勢にあふられて筋入りの窓ガラスもこゝでは役立たず、二枚打われられら〜と大い電氣室を襲つて来たところだ。鐵扉をおろした内の木造ドアへも火がついてチヨロ〜やつてゐる。それつとホースで辛くも止めた。

機械二臺は何等の損傷なく、僅かにモーターそれも補助モーターのギヤを焼いたのみで大事に至らなかつた。この間實に二時間、モーター少し廻つてゐる。四邊は煙りに包まれ、晴れてるのか曇つてるかさへ判然しない。と地下室が燃えてるといふものがある。地下室は補助エンジンと暖房で大部分だが、月越しの紙型などもおいてある。こゝも筋入りガラス窓一枚破られ、こゝから火が入つたもので、例の消火栓ホースでやつと消

し止めたが暖房には何等の損害もなかつた。

五時になつた。と倉庫から煙りが出るといふものがある。捲取紙地金、損紙など入れてあるのだが開ければ機械室が危険になるので外部から窓をうち破りホースを入れた。あとでみると捲取紙は一本がどうかと思はれるばかりで、あとは損紙が数枚と古雑誌が數冊焼けたにすぎなかつた。

七時漸く安心すると共に人の顔が分つて来た。電氣はなくとも四邊は今尙紅蓮の煙なので暗くはない。前田、小田、望月眞、大村、杉山秀、望月祐、杉山眞、三浦吉田、殿岡君等僚友のやつれた顔が見える。他の諸君で外出してゐたものは危険だといふので消防手が近づけなかつたとの事である。たゞ残念な事は屋上の鳩小屋を焼いた事だが、しかしその以前に保り望月君が大部分籠に入れて助けた。屋上の片隅に菓子皿が何枚かキチンとしておかれてゐるのも望月君の落付きぶりがうかがへた。助かつた第一原因は残つた人の死ものぐるいの防火もあつたが畫間で足元が明るかつたことも原因の一つだ。今後は少なくとも木造は三四間離して建てること、各階に消火栓をおくこと、やゝ暗らくとも窓ガラスは筋入りとすること、出来たら鐵扉をつければ申分ないと信ずる。そして各階に決死の防火員を常備すること、それがやがては社を護り、自らを救ふ所であると思ふ。私は助かるといふ自信をはじめから持つて居た。それは東京大震災のとき東日にあつて経験もしてゐたからである。たゞ社長は留守で職場を失ふなといふ念が絶えず往來してゐた。そして残つた人たちの殊に若い人たちのあたたかぬ努力が未だに眼前にちらつてゐる。

新年互禮會

ところく

名古屋支社

先づ全員恭々しく宮城、神宮遙拜、次いで護國の英靈に黙禱を捧げた午前十時半スピーカを流れる力強い古野社長の年頭の辭は一語一語喰ひ入るやうに全支社員の耳をうつ、一同今更のやうに



職績き(盆洗)共産主義一苦勞して赤くなる(炭一俵)盲目の玉突一めつたに當らぬ(債券)等々時局色豊かな作品が和やかな笑みの渦を巻き起した。

福井支局

越路には珍らしい多麗の元朝、支局員一同は傳統的精神たる人の和と熱と力に依り渾然一體となり期待に添ふ所あらんと誓ひ、與亞型の粗酒粗糲、紅二點女子社員の幹旋に何れ劣らぬ下戸黨ながら祝意津々、最後に飛び出した福引の餘興に哄笑爆笑、和氣蕪々裡に明日への活躍を心に描きつゝ散會した。

福岡支局

大同盟の新たなる決意を固め聖職完遂の一翼を擔ぶ思想第一線戰士としていかなる國家的艱苦にも耐え一路奮進を誓ひ、社長の發聲で聖壽萬歳、同盟萬歳を三唱してこみあげる感激を爆發させ、引續き十一時から慈よ支社互禮會に移つた。

榮光の歡喜に面輝く吉川支社長は烈々火を吐く熱辨をもつて年頭の挨拶をされ、支社全員に強い感銘を與へた、かくて一同盃を擧げて支社の萬歳を三唱、互ひに冷酒を飲み交しつゝあるうちに早くも恒例呼び物の福引の幕が切つて落され、商況部諸君苦心の傑作が次々に飛び出す、蔣介石の軍艦一敗



熊本支局

本社に於ける新年互禮會の時間にあはせ午前十時支局員一同事務室に參集、配信先新聞社員數氏來會、互禮會を催し恰かも専用電話により古野社長の新年の辭を拜聴し支局員一同、捨身通信報國の感激を新たにし次で簡素なる祝宴を開いて二千六百年の首途を祝福した。

仙臺支局

縣社大崎八幡宮に打ち揃つて參拜、皇軍の武運長久を祈願した後支局に引返し與亞奉公日ながら特に意義深き紀元二千六百年の元旦を祝ひ、折柄來合はせた河北一力副社長以下同社幹部等と冷酒とスルメで盃を擧げ大同盟の社運隆昌を祝福した。

金澤支局

時局型の野酒野肴を酌み交し、

めの全支社員の大同盟的協力と奮闘の必要を強調して力強い激勵の年頭の挨拶を述べ矢野、黒木兩君が全社員の一致團結と猪突邁進を誓ひ、軍曹山崎君の指揮で愛國行進曲を高々と齊唱し最後に寺尾君の發聲で聖壽の無窮を詩いで舉杯萬歳を三唱したのだったが、支社長の發聲に呼應してウンと氣はつた寺尾君の萬歳の聲の大きさとともに軍曹山崎君のユーモアたっぷりな行進曲合唱指揮は戦艦を浴びて來た軍曹だけに板についたもの、食堂には支社からの應召、入營者に送る頌春の賀詞を認むべく五本の巻紙がのべられてある皆頭張れの、お目出度りのと書きなぐつてある、かくて多彩異色の互禮會は嚴肅緊張裡にも緯々たる餘裕を見せ極めて印象的に終つたのだ。

京都支局

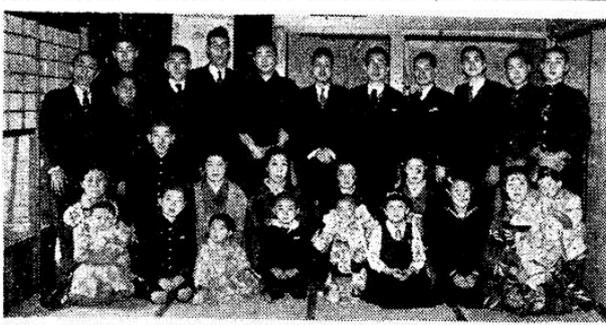
専用線を通じて放送された古野社長年頭辭をスピーカによつて謹聴し、終つて社業の發展を祈つて乾盃、簡素な祝宴を開き和氣蕪々裡に正午近く散會した。



兩階下萬歳、同盟通信社萬歳をそれ、三唱「愛國行進曲」を高らかに唱和して十時半閉式、記念撮影の後全員打揃つて出羽町原頭に神鎮まる護國神社に詣で解散した。

函館支局

函館八幡宮及護國神社に參拜皇軍の武運長久と同盟通信社の彌榮を祈願したのである。



通信社の通信事務を委託經營することになつた爲め一月一日から二十四名の社員と十二名の職員を新たに迎ふるになり、茲に總數七十八名の大進出最前線支局としてこの威容を整備することになつたので、元旦の互禮會を機會に新舊全社員を一同に集め、河崎支局長より年頭の辭に兼ね今回の商通社員併合に關する経緯と今後の指針につき挨拶を述べた。

高知支局

午前九時一同打揃つて清澄鏡川河畔の山内神社に參拜、皇軍將士の武運長久を祈願の後社前で記念撮影をなし歸局。祝詞交換と今後の決意を相互に誓ひ合つて乾杯した。



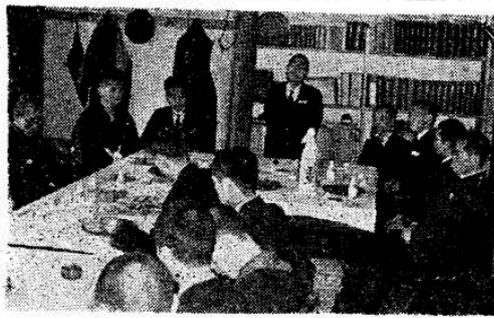
やがて午前十時を少し過ぐる頃専用線の電波に乗つて本社における互禮會の模様と古野社長の力強い年頭の挨拶が傳へられ、一同は今更ながら同盟社員たるの力強さと誇りを新たにし通信報國の誠を捧ぐるの決意をしたのである。かくて終日一同執勢に榮ある新年の第一歩を踏み出した。

松山支局

宮城並に神宮遙拜、戰役戦傷戦線の將士に感謝と武運長久の黙禱を捧げた後、用意の清酒に乾杯し山田支局長の發聲で聖壽の無窮と我が古野社長の同業通信社のため萬歳三唱、階下より寄贈の手料理と盛裝の玉井鈴木河野の諸嬢の幹旋に歡を盡し朗らかな我が世の春を謳歌しつゝ洒落やら隠し藝など和氣蕪々裡に正午散會。

京城支局

京城支局は今回同盟が日本商業



五日の新年宴會には支局長主催の同人及家族招待會が催され、時節柄極めて内々に各自の健康を祝し隠し藝の披露あり、餘興として福引があり和氣蕪々裡に一同歡を盡して夕刻散會

同盟通信社函館支局：恵比須町(エビス像)春は嬉しい新婚旅行：男女の旅(足袋)

